

研究通信

No. 45

1963.12 刊
研究会局
社会事務
村落
会員登録
東京都港区芝三田
2/2
大学
義塾研究室
内
オ
三
慶應
三
内

「村研の今後について」

も変化があることも無視できないことでしょう。

しかし、当初より、私など社会学に属する者の一人としては、経済史や経済学の方面の専門家によつておこなわれた村落の調査研究の報告を直接その人々からうかがひ、うちわつて素朴にすぎるかもしれない疑問を出しても、まともにそれに答えていただき、討論もできるといふところに大きな魅力があつたのでした。もし思ひ上りないとすれば、経済学・経済史の方の人々も、その逆に、同様な魅力を村研に見出して来て下さつたのではないでしようか。

その場合、現在の村と共に過去の各時代の村も報告の対象としてとりあげられ、地方による差も考えられてきました。いつれにせよさまざまな条件の中で、日本の村落社会が示してきた発展、時代から時代へ継承されつつ、変化してきた日本村落の構造機能における性格如何は、村研における中心的な共通の関心となつてきましたのは何かといえば、各人が夫々の立場からおこなつた事例研究を持ち寄つて、共通の素材となしうるようになつてそれを提示し、それをとりあげるについての理論的枠組なり、これにともなつた分析方法なりにまで及んで討論がかわされるところに村研の方式があつたのです。

対象は村落社会であつても、そのあつかわれる時代はさまざまです。

さらに、戦後まもない頃と今とではそれ別な所属学会の活動も活潑となり、それらとの関係における村研のメンバーの研究条件に

現在の村を以下の関心の中心におく者も、過去の村についてより深く知ることを必要と考え、またその逆でもありました。方法もまた社会学・経済学のいづれのなかでも多様であり、その多様な接近か

(三二六)

ら学び合おうとしてささました。

ところが、年報を継続して時潮社から出してもらえる条件として、特集テーマにしほることが必要となり、また現在のトピックを追うような傾向も生じました。それだけでなく、村研の趣旨として事例研究を持ち寄るという点についても、先の点と同様に、出版事情の制約が増大するにつれて次第にむつかしくなつてしましました。年報刊行の条件が年々の共同課題、大会の報告内容を制限しがちになり、編集の任に当つて下さつた方々の苦労も多分にそこに生じたようでああります。

学術的なものなら条件をつけないと書つて下さる出版社があるといふ新しい状況に立ちえたということですから、村研は会員一人一人が、最近大会に出席されない人々をも含めて、どのような研究開発心をもつておられるかを確かめ、ともに村落社会の研究に関心をもつかざりの人々が心ときなく参加でき、たがいに学び合えるような大会をもち、その成果が年報に載るというのが望ましいのではないでしょうか。また、拡大委員会が結果的には縮少してしまわないようだ、一定の委員会を編成した方がいいようにも思われます。新しい方針が確立するまで、この一年だけでなく、少くともまず二年ほどでも、事務局を慶應でやつていただくことはできないものでしようか。

◇ 事務局からのお知らせ ◇

1. 三十八年度大会におきまして、当会事務局を慶應義塾大学で御引受致す事に決定致しました。何卒よろしくお願ひ申上げます。

宛 先

東京都港区芝三田二〇二一

慶應大学第三研究室内

有賀 喜左門

2. 今般会員諸兄からの御希望もありましたので、本学で事務局を担当している間御利用願える郵便振替口座が開設されました。

今後御送金の折は御利用下されば便利でござります。

口座番号 東京八〇二二七番
名 称 村 落 社 会 研 究 会

— 本会および事務局への要望 ——

アンケートの結果より

先日往復ハガキにより会員の皆さまから本会および事務局への要望を募りましたところ、次のよき御意見が集りましたので、原文のまま掲載させていただきました。（順不同）

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆
「研究通信」に望むこと
☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

村落社会研究会は、数多い学会のなかでも、いわばサロン的性格をもつた特異的な存在であると、私は思つてゐる。
特別の役員といふようなものを設けることなしに、なんとなく会

が運営されて行くといふのも、その一つのあらわれであろうし、また「研究通信」というよき連絡誌の配布も、この会を特色づけていることの一つであろう。そんな点からすれば、「研究通信」は、現地調査の理論研究をなるべく機知させるよう仕方で大会を会員相互の連絡の場として、もつと積極的であつていいのではないかと思われる。学会としての村落社会研究会の普段の

活動状況はこの「通信」によって会員に伝えられてきたのであるが、更に進んで、会員の動静・各会員の学界における活動、あるいは学会への要望その他なんでも言いたいことが、長短を問わず、言えるような、つまり、いいかえれば、会員のみんなが自由に話しあう、意見の交換をしあうサロンの延長のようなものとなつたらどうだろうか、そんなことが案外学問の発達に貢献するのではないだろうか。一とくにこの学会のように学問のいろいろの分野の人々が参加してくるところでは尙更一などと、考えてみるのである。

これまでの年報をみましても、「共通論題」ないし「シムボジウム」の内容について、その分析の視角ないし方法において、経済学的アプローチに対する社会学的アプローチの方が少しく不明確に思われます。たとえば現段階で「農民層分解」を提起されるのは時宜にかなつたると思ひますが、それはもともと経済学のカテゴリ一であり、それいかに社会学的に接近するのか、そのカテゴリーは如何?といつた検討が乏しいようです。〔立教大学経済学部・住谷一彦〕

小池基之

社会学以外の専門分野の方々の参加をできるだけ推進していくいただきたい。

〔福島大学芸術学部 管野正〕

どんな素朴な疑問でもどしどし話題に出せて、しかもそれをみんなどして納得のいくまで討議できるような集まりとして、これからもつと、ぐんぐん成長していくことを心からねがっています。私自身の側に問題があるのかも知れませんが、まだ少し「こわい」ところがあるような気がします。〔東北福祉大学・小山陽一〕

会費徴収方法について、従来は大会出席者だけが会費を納入する機関ごとにまとめて徴収して送付するという方法をとつたらいかが事もできると思います。また「研究通信」も連絡員に一括して送り配布を依頼すると、郵送料が節約されると思します。

〔東京教育大学・柿崎京一〕

多数の会員が、毎年何らかの形で村落調査を実施されることと思ひますが、若干でも共通の調査を行つて、研究会で全国的にまとめしていくようなことを望みます。なるべく基礎的な問題を、わずかでも、調査項目としてとりあげて、会員個人としては、たとえ、片手間の仕事であつても、全体としてみれば、やり甲斐のある立派な仕事になると思ひます。

次に研究課題として、四五年連続でとりくむのもほしのようと思ひます。〔京都大学・池田義祐〕

村研の会費納入および年報購入などのため振替口座を設けていたときだ。〔例えば時潮社内に置ければそれでもよしし、事務局をそろそろ固定してもよのではないか〕

〔愛知学芸大学・高野史男〕

もう少し長いアンケートでも良いと思うのですが、会員間の研究近況やそこでの関心や問題点などを「研究通信」をとおして、相互に知りあうようにしていただけたら幸いです。また会員の最近における村落研究論文のリストなどくわしいものを作成していただけたら幸いです。

〔北海道大学・布施鉄治〕

各研究者の研究動向とその成果の発表文献の紹介を出来るだけお願いいたします。

〔常滑市立青海中学校・永田文夫〕

機会がありましたら小生のような変り種（村落の実証的研究からもたらされた社会理論を基盤として、国と国との関係を、電波の交流の実態研究から類推していく）にも発表の機会を与えて頂けま

〔三二九〕

したらと考えております。

〔東洋大学　酒井俊二〕

(1) 会員名簿の改訂
(2) 一九六四年度大会の持ち方

「村落社会研究方法」を研究会の共通テーマの一つとするのことを希望します。

〔農業総合研究所　川口一謙〕

会の事務局をどうかに固定することはできないでしようか。

〔日本常民文化研究所　宮本常一〕

(1) 会員名簿の改訂については時々必要なことはざつたの事務局でも痛感していることあります。すでに度々行われている所ですが改めてその必要を申上げるまでもありません。先日往復はがきで会員としての去就を決定して頂くことや住所の移動の報告等をお願いいたしました。私共としてはなるべく会員として残つて頂くに尽力をお願いいたしました。

(2) 大会の持ち方は今までには一定の型ができたように感じます。

共同課題のため方は必ずしも毎年同じであつたとの字をこねりませんが、従来は年報出版の事情に制約されることが大きかったことは諸兄御承知の如くであります。年報が九冊も続いて出版されたことについては時刻社の並々ならぬ御厚志によるものであつますが

から、深く感謝しております。今回理事会が新たに年報をお受け下さる機会に、大会の持ち方について新生面を深くこれができないかどうかと日々ことを今年の大会で会員が抱いた感想をあつたようだと思ひます。中野氏の考え方もその一つであると思ひ少なく、会員諸兄のお考えにまつ申りますから、今事務局で事務的な点で処理に苦しみでいることを皆様に申上げて、会員諸兄の御尽力をお願いしたい存じます。それは次の事柄であります。

今年の大会において来年の共同課題を決めなかつたのも、こんな事情もその理由の一つであつたと思ひます。中には来年の大会を一月に開催したいと考へておられた方々もおられました。そこで、共同課題による研究発表とし、その中から共同のテーマに該する

れるものについて共同討議をするといふ複線コースが一案として出ておりました。

共同討議を廃止するという考え方はなかつたと思ひますから、それを行う可能性も氣持ももちろん誰れにもあつたと思ひます。それは村研の泊りこみ会議の特色であるからです。しかし從来は共同課題がきまつても、これに対し積極的に研究発表をしようといふ気風が少かつたことも事実です。事務局や委員会から頼み込むといふ結果になることが多かつたと思ひます。自由課題で研究発表をする方が気が軽くなる点はたしかにあると思ひます。自由課題が余り別れ別れになつて共同討議が全然できなくなつてしまつても困ると思ひます。

こうじうことを考えて來ると來年度大会のやり方が大変むずかしいことになつてしまふのですが、ともかくここで会員諸兄が自由課題で研究発表をなさる希望がどの位あるか、その題目は何かといふことを事務局ではつきりさせておいて、その全体の中で共同討議の可能性があるかどうかを検討して見てもよいのではないかと思ひます。

もちろん、その決定までには各地の会員に右の結果を報告して、もよよりよりで話合つてもらひ、拡大委員会にかけて決定するようにしていと願ひます。こうじうやり方がよいかどうかにも問題はありますから、村研の發展のために、この「通信」をごらんになつたら是非御返事を頂きたいと存じます。

希望する場合の研究題目

B 共同討議を希望するなら、その共同課題